

函館のまちづくりを考える はこまち通信

Vol.

42

2017年10月

発行/函館市地域交流まちづくりセンター

「第13回NPOまつり」「夏休み工作フェスティバル」を開催しました!ご参加ありがとうございました!



第13回「NPOまつり」の様子



夏休み工作フェスティバルの様子

特集 P2~3

「函館コミュニティプラザ Gクエアの仙石さん」に施設の紹介をしていただきました!

特集 P4

函館に移り住んだ「北海道坂本龍馬記念館の期待の新星(其の弐)」
函館市地域交流まちづくりセンター10周年記念企画
「まちセン御三家に聞きました(現在編)」

このページを
チェック!

今号の市民活動団体

① 特定非営利活動法人 ひまわり

② 就労継続支援B型事業所 あいりす



Gスクエア センター長

函館市地域交流まちづくりセンター
センター長

仙石智義 丸藤 競

仙石智義 [プロフィール]

1982年函館市生まれ。

公立はこだて未来大学卒業後、グラフィックデザインの仕事をを経て29歳で函館市青年センターのセンター長に就任。本年4月より現職。NPO法人函館市青年サークル協議会事務局長も務める。

【聞き手】函館市地域交流まちづくりセンター
センター長 丸藤 競

今回は、4月22日にシエスタハコダテ4階にオープンした、函館コミュニティプラザ Gスクエアのセンター長仙石さんに、施設の紹介をしていただきました。

対談

丸藤 オープンして半年が過ぎようとしていますが、どうでしたか？

仙石 4月22日の土曜日にオープンしましたが、今日まであつという間でした。まったく新しい施設ですし、商業ビルの中に入れてさせていただいているので、多くの方との連携が必要です。前例がない中でつくりあげてきて、気がついたら半年という感じですね。

丸藤 たくさんの方に利用していただいていますね。

仙石 オープン当初はスタッフも慣れておらず、利用者の皆様にもずいぶんご不便をおかけしてしまったこともあります。でも、毎日たくさんの方の高校生をはじめとする皆様に利用していただき、力をいただいています。

丸藤 Gスクエアは、どんな施設なんですか？

仙石 函館の中心市街地活性化と若い人達の自主性を引き出す場。というのが大きな柱となっています。まずは若い人たちにふらっと入っていただけるような居場所になることで、人が集まり活気が出ます。さらに、集まった若者に、夢を叶えることができるんだよ

特集

はこまち対談

「若者の「夢」を叶えたい」



とついでとを伝えることで、自主性を引き出していく…とついでを理想としていきます。

丸藤 夢が叶えられるとついでさらに若者が集まり、集まることで叶えられる夢も多くなり、また人が集まる…とついで良い循環ができると思いますね。

仙石 趣味の延長としての活動の場は既にありますが、起業家などのように経済活動と結びつくような夢も支援する施設は少ないと思います。同じビルに入っている無印良品さんなども連携できることも、大きな要素だと思います。

丸藤 どんな方が利用していただけますか？

仙石 午前中は買い物に来たご年配の方が多いです。ゆつくり休んでもらったりしています。午後になると、学校帰りの高校生が中心になります。友達とおしゃべりしたり、勉強したり。自由に使っていたいです。テスト期間中などは、凄くことになってますよ(笑)だいたい毎日、6000〜7000人くらいにご利用いただいています。

丸藤 貸し切りのイベントでも使えるんですね。

仙石 ホールを区切って使うこともできるので、スタッフに相談してみてください。

ますね。

仙石 その道のエキスパートの方に講師になっていただき、高校生などと考えていく場となっています。今はこちらが用意した5つのプロジェクトを実施していますが、将来的には高校生や大学生側から出てきた希望に添えて新しいプロジェクトが生まれ、そこになっていく…とついでな形になっていければ理想ですね。

丸藤 色んな分野で活躍してくれる人が出てくると思います。

仙石 まだまだこれからですが、可能性は高いと思います。

丸藤 気軽に集まれる居場所があり、その中に夢もあるというのは素晴らしいですね。

仙石 GスクエアのマークはGを扉にみたくて、気軽に扉を開けて来てもらいたい。それは、夢の扉にもなっているよ、という意味を込めています。防音になっている部屋や、キッチンスペース、会議などの催し物として使う場合には予約が必要ですが、基本的にふらっと来ていただけます。無料で使える場所がたくさんありますし、まずは来ていただくたいですね。

丸藤 お洒落な空間ですからね。

仙石 落ち着いた感じですし、窓からの眺めもいいですよ。開かれた空間になっています。

丸藤 木製の素敵な棚には、絵本が置いてありますね。

仙石 地域で眠っている絵本を循環させましょついで無印良品さんの企画と連携しています。オススメスポットのコーナーも連携しています。

丸藤 若いスタッフが多いですね。

仙石 利用者の皆さまとの会話を大切にしています。コーチングなどのスキルも取り入れ、例えば高校生の可能性をのばすようなコミュニケーションをとっていききたいですね。

存在を否定しないとか、誰もが一人の人間として必要とされているということが若い人に伝わるようにしていきたいと思っています。

丸藤 GLAYコーナーは、ファンはもちろん全国的にも有名なスポットですね。

仙石 レリーフと、からくり時計があります。毎正時には、時計の前にたくさんの方が集まりますよ。GLAYのように、ここに来ている皆さんには夢を叶えてもらいたいですね。

丸藤 未来のGスクエアを、どんな場所にしていきたいですか？

仙石 若い人たちがここを拠点にして何かを発信していくとか、まちと一緒になにかをしたいとか、ムーブメントを起こしていきたいですね。お店や会社を設立するなどの経済活動にもつなげていきたいですし、ものづくりの応援

もしたいです。

丸藤 Gスクエア発の「函館と言えよ」といつヒット商品が生まれるといいですね。

仙石 今の若い人達は常に社会と接していたという気持ちは強いですが、社会に敏感でいろんなことを考えています。だから、可能性は高いと信じています。どこか他のまちに行ってしまう若者も多いとは思いますが、Gスクエアでの経験を活かして、さらに大きくなって函館に戻ってきてもらって、今度はGスクエアのエキスパートとして活躍するようになってもらえたら嬉しいですね。

丸藤 期待できますか？

仙石 もちろん。私達より、ずっと可能性を持っていますから(笑)

函館コミュニティプラザ

Gスクエア

HAKODATE COMMUNITY PLAZA GSQUARE

函館コミュニティプラザ(愛称:Gスクエア)
 函館市本町24番1号 シエスタハコダテ4階
 開館時間:9時30分~21時30分 休館日:1月1日
<http://g-sq.jp/>
 お問い合わせ
 電話:0138-35-4000 E-Mail:info@g-sq.jp

移住サポートセンターより

函館に移住された方をご紹介します。

函館に移り住んだ

「北海道坂本龍馬記念館の 期待の新星(パートII)」

■龍馬一族と北海道

「坂本龍馬って、北海道に来たんですか？」

記念館で受ける、最も多い質問だ。

結論を言えば、龍馬は北海道に來ていない。では、なぜ北海道に龍馬記念館なのか？

たしかに龍馬は北海道に來られなかったが、龍馬一族として見てみると、北海道とのつながりは極めて強い。龍馬が暗殺され、蝦夷地への夢が絶たれてしまった後、その遺志は子孫に受け継がれることになったからだ。

まず龍馬の甥にあたる高松太郎が、龍馬の死から6か月後に、明治新政府の役人として函館に渡っている。そして彼は、龍馬の蝦夷地開拓計画を新政府に提言する。その計画はやがて、屯田兵制度として採り入れられていく。

またもう一人の甥、坂本直寛は、明治31年に一族を引き連れて、北海道に開拓民として入植している。自由民

権運動にも加わっていた彼は、龍馬の夢を追って、北海道の開拓に乗り出したのだ。

こうして、龍馬一族と北海道のつながりは、深いものになっていく。そして今も、坂本家の本家は札幌に存在する。

■蝦夷地に懸けた夢

では、これが北海道に坂本龍馬記念館を建てた理由かというところ、それだけでは足りない。一番の理由は、龍馬が描いていた大きな夢にある。

龍馬が生きた幕末動乱期、たくさんの志士たちが戦いのなかで斃れていった。龍馬はこれ以上、内乱によりたくさんの血を流すことで、国を疲弊させてはいけない、と常に考えていた。日本を狙う外国の思いつぼになっってしまうからだ。

そこで龍馬は、蝦夷地開拓計画を思いつく。争い合う志士たちの目を蝦夷地に向けさせ、その開拓とともに北の脅威(ロシア)からの防衛にあたらせようとしたのだ。

この計画を、龍馬は一貫として持ち続け、その実現に向けて奔走していた。いろいろな資料を検証し、当時の状況から推測すると、彼が蝦夷への渡航を実行に移そうとしたのは、実に5回に上るとみられる。その間、様々な事件や事故、トラブルに巻き込まれながら、彼の想いが揺らぐことはなかった。

そして龍馬は、蝦夷地の先に世界を見ていた。彼が組織した海援隊で、世界に打って出る気概も持っていたのだ。外国との交易によって利潤を得、それを国防に注ぎ込むことまで考えていた。

「役人は、性に合わない。世界の海援隊でも、やろうかのう。」西郷隆盛に問われたとき、龍馬が答えた言葉に彼の想いが込められている。

無駄な血を流すことなく、開拓と防衛に力を注ぐ。これは、倒幕の志士たちはもちろんのこと、函館の英雄・土方歳三を含む幕府側の武士たちさえも救おうという、大きなものだった。

■想いを受け継ぐ

国力を高めながら、外国から日本を守るうという、この計画こそが龍馬のまさに真骨頂といえるだろう。

だが龍馬は、戦いを回避さえすればよい、と考えていたわけではない。出来得る限りの行動をして、それでもどうにもならない時には、力を行使せざるを得ないことも覚悟していた。大政奉還の直前、後藤象一郎に宛てた檄文に、それが表れている。

『大政奉還が成功しないときは、海援隊を率い、慶喜を討ち取る覚悟です。その時は、地下でお会い致しますよ。』命を懸けた、ギリギリの行動を重ねていたことが窺える。そうさせたのは、何としてもこの日本を守りたい、守るのだ」という強い願い・信念が龍馬

に流れていたからに他ならない、と思う。

たればの話になってしまいが、もし彼が暗殺されていなかったら、多くの志士たちと共に、必ず北海道に渡っていたはずだ。そして、最初に足を踏み入れた土地は、開港に沸くこの函館であったことは、まず間違いない。

龍馬がもっていた、これほどまでの計画、これほどまでに強い意志を多くの人たち、特に北海道の、そして函館の人たちに知ってもらいたい。北海道坂本龍馬記念館は、そんな想いの上にある。



龍馬像の前で五稜郭祭出陣式～学生たちと、筆者。(前列右側)

毎年11月、記念館では坂本龍馬蝦夷地上陸祈念祭を行ない、彼が果たせなかった蝦夷地に懸けた夢を、心から祈っている。彼の願いが、今の北海道に、そして日本に届くように。

柳田 善徳

NPO・市民活動団体紹介のページ

特定非営利活動法人 ひまわり

■どんな団体？

私どもは、精神、知的、身体に障がいのある方を対象に、一般企業就労が難しい方、離職された方、仕事をすることで社会的自立を視したい方へ、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う事業を行っております。

当NPOに関わるすべての人が、「ひまわり」の花のようにおおらかに笑顔で毎日を過ごせるよう、誠心誠意取り組んでいます。



編みぐるみ作品たち

■団体のPR

当団体は平成22年に設立され、函館市、乙部町、黒松内町にて就労継続支援B型事業所を運営しております。函館市内では2つ事業所があります。ひまわり函館B-1ではPCを使用した基本・応用操作の訓練、名刺・年賀状・冊子・チラシ・ポスターの製作・印刷、編みぐるみの製作、花壇整備・清掃作業等を行っております。ひまわり函館B-2では厨房補助・清掃と手芸品作成を行っております。両事業所ともひまわり函館B-2で調理したお弁当(400円)の注文が可能です。

また、事業所では定期的にレクリエーションを行っております。最近では函館公園でジンギスカンを食べながらのお花見や、工場見学等を行っています。

つながる、
つなげる

■会員募集など

見学等は随時受け付けていますので、まずはお気軽にお問い合わせ下さい。

見学後、当事業所の利用を希望する場合は、市役所等で障害福祉サービスの継続が必要です。

一緒に「買ってもらう」から「買わずにはいられないもの」を合言葉に作品づくりしてみませんか？

■これからの活動

各種イベント等で製作した商品販売していく予定です。ひまわり函館B-2では常時製作した商品を販売していますので、ぜひお越しください。



2年連続NPOまつり参加!!

特定非営利活動法人 ひまわり

■代表者名／倉持 篤 ■事務局名／坂井 太郎
 ■電話／0138-83-5323 ■FAX／0138-83-5323 ■メール himawari-jimu@hakodate.fm
 ■ホームページ <http://www.hakodate.fm/himawari/>

NPO・市民活動団体紹介のページ



パソコンの練習スペース



手工芸の制作スペース



事業所の外観

就労継続支援B型事業所 あいりす

■どんな団体？

障がいをお持ちの方や、就労が難しい方と一緒に作業を行っています。また、パソコンの練習を取り入れ資格取得を目指しています。

■団体のPR

湯の川温泉街の中にあり、松倉川岸の散歩道に面した陽当りの良い事業所です。所内ではパソコンの練習と手工芸品作りを中心に行っています。パソコンでは日商検定3級(ワード・エクセル)の取得に向けて練習を行い、就労に繋げることが出来るようにサポートしています。手工芸は興味がある物の制作から始め、商品化し販売しています。NPOまつりでは、切り絵・アイロンビーズ・ワイヤーアートなどを販売させていただきました。

■会員募集

所内を見学後に希望があれば体験実習を受け付けています。見学、体験については月曜日から金曜日の13:00～14:00の間で行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

興味のあることから
始めてみよう♪

■これからの活動

作品の販売と季節ごとのレクリエーションを予定しています。8月のレクリエーションでは、金森倉庫内を見学し、焼肉屋さんで食事会を開催しました。今後も皆さんの意見を取り入れながら行ってきたいと思っています。



ワードアート・ビーズ作品



切り絵・編み物作品

就労継続支援B型事業所 あいりす

- 管理者／佐藤 大輔
- 事務局長／久保田 豊滋
- 会員数／20名
- 電話／0138-36-5558 FAX／0138-86-7353
- ホームページ <http://iris-hakodate.com>

NPOワンポイントアドバイス!

皆さんの組織でも、「会議」はよく行われると思います。
 しかし、そもそも、今行われている会議が何のための会議かを理解していないと、
 効果的な会議にはなりません。そこで、今回からは、会議のタイプ別にアドバイスをしていきます。
 まずはじめは、そもそも、会議にはどんなタイプがあるのか…について整理してみます。

1. 顔合わせ会議

団体やプロジェクトを始めようとする時、まず最初に行う会議です。

2. 定義を決める会議

組織やプロジェクトの重要な概念や、定義、組織名、目標などを決めるための会議です。

3. アイデアを出す会議

プロジェクトを開始する場合など、良い企画をつくるためにまず行う会議です。

4. アイデアを整理する会議

出したアイデアを整理し、精査し、実現可能な企画に組み立てるための会議です。

5. AかBかを選ぶ会議

複数の中からベストなものを選ぶための会議です。

6. 企画会議

活動のプログラムなど、具体的な企画をつくりあげていく会議です。

7. 進捗を報告・伝達する会議

関わるメンバー同士の情報共有を確実にするための会議です。

8. 問題解決のための会議

組織内部等に発生した問題や課題、組織へのクレームなどに対応する会議です。

9. ルールを決める会議

組織立ち上げの時や新たな事業やプロジェクトを行う時に必要になります。

10. ふりかえり・評価の会議

個人攻撃ではなく、改善して次に活かすための反省と評価を行う会議です。

次回からは、タイプ別に効果的な会議のしかたについて詳しくアドバイスしていきます。

参考:青木将幸著『市民会議術 ミーティング・ファシリテーション入門』ハンズオン埼玉出版部



センター長のつぶやき

まちづくりセンターセンター長 丸藤 競

先日、テレビなどでも有名な茂木健一郎さんの講演を聞くことができました。脳科学者の立場からみた認知症の話は、とても興味深く分かりやすいものでした。

現在、認知症の進行を決定的に止めたり治したりする薬はありません。だからこそ、認知症にならないようにするための予防が大切です。予防に効果があるのは、運動と好奇心と言われています。週に3回以上、30分以上の運動をしているといひそうです。好奇心でいうと、初めてのことをすることで普段使っていない脳の部分を使い、効果が出ると言われています。

東京都健康長寿医療センターの調べによると、毎日外出している人に比べ、週に1回以下しか外出しない人は認知症の発症リスクが3.49倍にもなるのだとか。

いつもとは違う道を歩いて帰ってみる。色んな人と話してしてみる。イベントや、新しいお店などに行ってみる。運動と好奇心の両方を満たす機会はたくさんあります。中でも、一番効果的なのは何かの活動に参加していただくことです。

茂木さんによると、これからは人工知能の時代になるので、今までのようなペーパーテストの点数が高いことは必要なくなります。それに代わり、自分で問題を見つけられる人が大事になってくるそうです。

この自ら問題を見つけられる力は、様々なNPO活動でも求められます。みなさん、認知症予防のためにも、興味のある活動を見つけぜひ参加してみませんか?



▲ミニミニクッション



▲新作も登場!絵ハガキ

**福祉の店
どんぐり
2号店**
(まちづくりセンター1階)

全国的に見ますと天候不順が続き、記録的な暑い日が続いたと思えば、集中的な豪雨が有って大きな被害が出ています。人命に係る被害が続いていることにお悔やみを申し上げます。
 昨年の同時期に発行された「通信」でも触れましたが、神奈川県で発生した障がい者施設での殺傷事件は、世界中に衝撃を与え、犯罪の原因や加害者の背景にあるものを解明するよう求める方は多くいましたが、加害者の心理状況を最近報道されるたびにいたたまれない思いをしている方は多いと思います。このようなことが起きないように、虐待防止法や差別解消法が施行されましたが、障がい者・高齢者・児童等に対する虐待が減少されていないのは人間として悲しく思います。
 人権を尊重しあえる社会をつくるために、努力をしましょう。

■営業時間 / 10:00~16:00
 ■定休日 / 土・日曜日・祝日

製品は、函館市総合福祉センター1階・函館市役所地下売店でも販売しています。

8月にストーブ点けた、というくらい肌寒かった今年の夏。7月が暑すぎたのかな。さてさて秋はどんなふうかしら。台風あまり来ませんように。

◆シロップミルクティー
 秋風が吹き始めるととたんにオーダーが増えるのが、チャイとメイプルミルクティー。カナダ産のメイプルシロップを加えたミルクティーは、やさしい甘さで私も大好きです。

この秋から、新しい味が仲間入り。
 七飯町のconeruさんのシロップをお取り扱いさせていただくことになりました。エルダーフラワーとエキナセア、どちらもミルクティーによく合います。これまで通りメイプルもお選びいただけます。選べるミルクティー、あなたはどれにしますか?

coneruのシロップは、瓶入りのものを販売いたします。
 おうちでも飲み物に入れたりパンケーキにかけたり、楽しんでくださいね。

◆豆を煮る
 お豆を炊くのが好きです。小豆、黒豆、花豆にくらかけ豆なども。お鍋をのせられるストーブがあればもっと手軽にできるのですが、わが家の暖房はファンヒーターでそれもかなわず。夕食後にコトコト煮たり、たまにはシャトルシェフでほったらかし調理したり。

最近なぜか無性に「おしろこ」が食べたくて、ときどき小豆を煮ています。気まぐれにカフェのメニューに登場するかも?おしろこに入れるのは、団子ではなく断然お餅派です。

◆読書の秋ですね
 しばらくの間在庫がなかった「花しるべ 夏~秋篇(藤島 斉著)」が入荷しました。この本を片手に函館山歩き。暑すぎず寒くもなく、山歩きには格好の季節ですね。

他にも函館のまち歩きを興味深いものにしてくれる本がいろいろ揃っています。

「函館100選豆本シリーズ1~3」大西 剛著
 「はこだてピースマップ」YWCAピースプランニング委員会篇 など。

cafe DripDrop★米田尚子



煎りたて珈琲と
 地物野菜メインのお食事

cafe DripDrop
 カフェドリップドロップ

見本誌もご用意しておりますので、スタッフにお申し付けください。

■営業時間 / 10:00~18:00
 ■定休日 / 水曜日

ホームページ <http://handpick.cafe.coccan.jp/>

まちセンからのお知らせ



第13回 NPOまつり を開催しました!!

7月30日(日)、函館市地域交流まちづくりセンターを会場に「第13回 NPOまつり」を開催しました。NPOまつりは、函館近郊の市民活動団体が一堂に会し、日頃の活動を紹介する年に



一度のおまつりです。各団体の活気ある声が館内や駐車場での特設ステージで響き、各所で交流する方々の姿が見られました。初めて参加した団体や長年参加している団体にとっても、活動を知ってもらう機会となったのではないのでしょうか。今年も昨年に続き、「NPOまつり」と「夏休み工作フェスティバル」を同時に開催し、たくさんのお客様にご来館いただきました。来年は、より魅力的なまつりになるよう、スタッフ一同尽力していきます。どうぞよろしくお祈りします!



まちセンからのお知らせ



木エクラフト(きしゃ)



毛糸で小物
(カップケーキとアイス)



パステル和(NAGOMI)
アート

まちセン 2017.7.30

夏休み工作

フェスティバル

全7講座を
開催しました!



レザークラフト体験



木のスプーンの
オリジナルデザイン



手回しオルガンKINO



タイルクラフト



デコ・お菓子の小箱

施設利用料金

税込(円)

階	会場名	面積	参考レイアウト		基本料金	
		m ²	形	席数	単価	金額
2階	多目的ホール	272	シアター	約100	1日あたり	10,000円
			スクール	約60		
	研修室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	500円
			スクール	約30		
研修室C	24	シアター	約30	1時間あたり	500円	
		スクール	約20			
3階	会議室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	300円 (一般利用500円)
			スクール	約30		
	会議室C	24	シアター	約30	1時間あたり	300円 (一般利用500円)
			スクール	約20		

※会場には、テーブル、イス、ホワイトボード、空調設備を備えています。※駐車場/2時間無料、超過30分までごとに100円
 ※営利目的(入場料を徴収したり、物品を販売するなど)で使用する場合は、割増料金となります。

備品利用料金

備品名	利用料金
音響機材(研修室・会議室用)	1,000円
音響機材(多目的ホール)	2,000円
プロジェクター	1,000円
スクリーン	500円

※その他、設備等については、ご相談ください。

■活動支援費 要相談 **1,000円**

印刷機使用料金 ※用紙代別

- ① 製版代/1枚……………**100円**
- ② 印刷枚数/10枚まで……………**10円**
(以後10枚毎に10円加算となります。)

※例) 12枚/20円、137枚/140円、1543枚/1,550円です。
 ※①製版代+②印刷枚数が必要です。
 ※印刷用紙は各自でご用意ください。また、小銭のご用意をお願いします。

コピー料金

- ① 白黒/A4・B4・A3……………1枚 **10円**
- ② カラー/A4・B4……………1枚 **50円**
- ③ カラー/A3……………1枚 **100円**

横断幕プリント/ ポスタープリント料金 ※用紙代含む

- ① 610mm×1.5m……………1枚 **2,400円**
- ② 610mm×3.0m……………1枚 **2,600円**
- ③ 610mm×4.0m……………1枚 **2,900円**
- ④ 610mm×5.0m……………1枚 **3,200円**
- ⑤ A2版(420mm×594mm) 1枚 **1,200円**
- ⑥ A1版(594mm×841mm) 1枚 **1,400円**

※横断幕は文字原稿、ポスターはチラシ又はPDF形式で原稿をお持ちください。

■【各施設の使用申し込みについて】

- 利用日時、利用目的をご確認のうえ、TEL.0138-22-9700、または、函館市公共施設予約システムよりお申し込みください。
<https://yoyaku.e-harp.jp/hakodate/>

【お問い合わせ】



函館市地域交流まちづくりセンター

〒040-0053 北海道函館市末広町4-19

TEL.0138-22-9700 開館時間 AM9:00～PM9:00

FAX.0138-22-9800 休館日 年末年始(12/31～1/3) ※器材点検のため月1回程度臨時休館する場合があります。

ホームページ <http://hakomachi.com/> 函館 まちセン

【指定管理者】NPOサポートはこだてグループ